

2023年度事業報告書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

一般社団法人日本工作機器工業会

目 次

I. 事業報告概要

1. 事業概要
2. (一社) 日本工作機器工業会組織図 (2024年3月31日現在)
3. 2023年度主要委員会開催審議状況

II. 2023年度事業実施の状況

1. 2023年度事業活動の実績等
2. 組織の詳細 (2024年3月31日現在)
3. 会員の異動 (2024年3月31日現在)

III. 2023年(暦年)工作機器概況

2023 年度事業報告 (2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日)

1. 事業報告

(1) 事業概要

2023 年度は、経常収益を 72,089 千円、前年度比 2,697 千円減と見込み、2023 年度総会(2023 年 5 月 23 日開催)で報告した事業計画に基づき所定の事業を実施した。

各事業の実施に当たっては、関係諸官庁の各種政策との協調を図りながら、本会の目的としている「工作機器に関する生産、流通等の調査、技術及び安全性の研究、標準化の推進等」に係る事業活動に、従来どおり委員会・部会活動を基本とし、関係官庁・団体との連携の下、効率的に実施した。

2023 年度は 2020 年度以降続いたコロナ禍が終息に至り、工業会活動は Web リモートと実対面の併用で委員会・部会活動等を滞りなく実施できた。また、コロナ禍で中断していた海外視察団派遣の再開はじめ JETRO 等からの情報収集、主要需要業界である半導体産業動向についての講演会も実施するなど、会員企業への国際動向・関係業界動向の周知に努めた。さらに、継続的に実施している工作機器に係る ISO 国際規格や JIS 国内規格に関する審議を行うなど、会員企業のグローバル環境における事業活動を支援する事業にも注力した。

また 2023 年度は次年度に開催される JIMTOF に向けて、工業会会員企業の出展サポートを実施した。さらに前年に引き続き中小企業等経営強化法に基づく税制軽減措置に係る証明書の発行サービス事業を実施した。

(1) 工作機器に関する生産、流通等の調査

工作機器の生産、販売、在庫及び輸出入に関し、会員企業を対象として毎月 1 回統計調査を実施した。

工作機器の主要な需要業界の高度化、多様化するニーズに即応して優れた製品を供給できるように、将来の需要予測調査(年 1 回発表)を実施した。

その他、経営を取り巻く税制や金融等関係情報など重要な事項について、関係行政機関や関連団体を通じ、収集・分析などを実施した。

(2) 工作機器に関する技術及び安全性の調査

産学の振興では、工作機器技術に関する研究開発に取り組んでいる大学の一つとして千葉大学を選定し、第 25 回産学研究交流会を開催した。この交流会には会員等から 21 名が出席し、講演会、研究施設の見学、大学教授等研究者との質疑応答や意見交換会等を実施した。その他、技術力の向上に向け関係行政機関等で実施されている各施策等の活用方法等について調査した。

(3) 工作機器に関する標準化の推進

国際標準化機構(ISO)の工作機器(TC29(/SC9、/WG34)、TC39/JWG7、TC39/SC8)に関する国内審議団体として、国際規格に関する国内審議および国際会議への専門家派遣

を実施するとともに、国内規格（JIS）の原案作成、将来の国際規格化を目指した工業会規格（TES）の作成等、工作機器及び関連規格等に関する標準化事業を実施した。具体的な ISO 国際会議対応としては、11 月に TC29/SC9、4 月に TC29/WG34（ツーリング）に関連する規格審議のため専門家が対面で出席した。また 9 月に TC29/WG34（ツーリング）に関連する WEB での規格審議のため専門家が出席した。

（４）工作機器に関する普及及び啓発

JIMTOF2024（第 32 回日本国際工作機械見本市）協賛団体として、会員への出展案内の発送、会員出展申込、会場構成、出展料金請求など開催準備に向けた活動を実施した。

その他、工作機器の普及及び啓発活動として、Web サイト、E-mail、週報（工作機器ニュース）、機関誌、会員名簿等を媒体として用意し、会員向け又は一般向けに各種情報を提供した。

（５）工作機器に関する内外関係諸機関等との交流及び協力

当会は、（一社）日本工作機械工業会及び(株)東京ビッグサイトが主催者となって開催する JIMTOF2024 の協賛団体として、当会会員企業が出展するための事務連絡、手続き等を代行実施するなどの便宜を図った。

内外関係諸機関等との情報交換・交流等については、工作機械関連団体協議会、JIMTOF 協賛団体、国際展示会（EMO2023）、（一社）日本機械工業連合会やロボット革命協議会への参加などによる機会を活用して実施した。

また、中国常州国家高新区商務局と情報交換等の交流を実施した。

決算では、経常収益は 74,012 千円、経常費用は 72,071 千円（当期経常増減額 1,940 千円）となった。

(一社)日本工作機器工業会組織図(2023年度)

(2024年3月31日現在)

(正会員60社、賛助会員9社)

総会

会長 寺町彰博(THK(株))

代表取締役

副会長 北川祐治((株)北川鉄工所)

代表取締役

副会長 黒田浩史(黒田精工(株))

代表取締役

副会長 宮地茂樹(日本トムソン(株))

代表取締役

(理事21名)

監事

監事 加藤祐造(カトウ工機(株))

監事 山田雅英(山田マシンツール(株))

監事 菊地秀行(日本工作機械関連企業年金基金)

理事会

会長

専務理事

専務理事 梅澤茂之

事務局

事務局長 (同上兼務)

人材開発研究会

座長 内田 賢(東京学芸大学)

担当副会長
黒田浩史

担当副会長
北川祐治

担当副会長
北川祐治

担当副会長
宮地茂樹

担当副会長
宮地茂樹

広報委員会

委員長 嶽本幸一
(シンフォニアテクノロジー)

編集委員会

委員長 嶽本幸一
(シンフォニアテクノロジー)

技術振興委員会

委員長 宮口和男
(日本精工)

副委員長

福崎亮一(シンフォニアテクノロジー)
水口淳二(日本精工)
星出 薫(THK)
渡辺 宏(アイセル)
早川祥弘(豊和工業)
三角 進(日研工作所)
多田裕之(津田駒工業)

国際委員会

委員長 紛澤剛史
(関東精機)

需給委員会

委員長 平沢真一
(第一測範製作所)

需要調査専門委員会

委員長 平沢真一(第一測範製作所)

運営委員会

委員長 下村康司(日本トムソン)

ボールねじJIS原案
作成委員会

委員長 深田茂生
(信州大学)

電磁クラッチ技術委員会

委員長 福崎亮一
(シンフォニアテクノロジー)

ボールねじ技術委員会

委員長 水口淳二
(日本精工)

直動技術委員会

委員長 星出 薫
(THK)

軸継手技術委員会

委員長 渡辺 宏
(アイセル)

チャック技術委員会

委員長 早川祥弘
(豊和工業)

ツールング技術委員会

委員長 三角 進
(日研工作所)

アタッチメント技術委員会

委員長 多田裕之
(津田駒工業)

部分品部会

部会長 下牧純二
(THK)

電磁クラッチ分科会

分科会長 猪越義彦
(小倉クラッチ)

ドライブイングユニット
分科会

分科会長 下牧純二
(THK)

軸継手分科会

分科会長 安藤敏信
(三木プーリ)

工作物保持具部会

部会長 寺坂創介
(帝国チャック)

チャック分科会

分科会長 寺坂創介
(帝国チャック)

その他工作物
保持具分科会

分科会長 二村忠宏
(二村機器)

工具保持具部会

部会長 弓場 隆
(MSTコーポレーション)

ツールング分科会

分科会長 叶 楠
(聖和精機)

附属機器部会

部会長 大河哲史
(津田駒工業)

附属品分科会

分科会長 大河哲史
(津田駒工業)

機器分科会

分科会長 田中信吾
(日本ジャバラ)

3. 2023年度主要委員会開催審議状況

委員会組織	開催時期及び開催場所等								年間の主な議題等
	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		
	開催日	議題等(場所)	開催日	議題等(場所)	開催日	議題等(場所)	開催日	議題等(場所)	
総会	5月23日	第31回通常総会(芝パークホテル)			10月12日 ～13日	工業会秋季大会(ヒルトン小田原リゾート&スパ)			理事選任(交代)、事業報告/収支決算報告、事業計画/収支予算等。
賀詞交歓会等	5月23日	第31回通常総会懇親会(芝パークホテル)					1月17日	賀詞交歓会(東京會館)	
理事会	4月18日	第134回理事会(書面審議)					1月17日	第136回理事会(東京會館)	役員候補者選出、事業報告/収支決算報告、事業計画/収支予算、工業会創立70周年記念事業等。
	5月23日	第135回理事会(芝パークホテル)					3月29日	第137回理事会(機振会館)	
監事による監査	4月18日	監査(工業会/Web併用)							2022年度の理事の職務の執行を監査。
運営委員会							3月18日	委員会(機振会館/Web併用)	役員改選、事業報告/決算、事業計画/予算、工業会創立70周年記念事業等について。 委員長改選。
需給委員会									
需要調査専門委員会	4月14日	委員会:2022年度需要予測(2023)最終検討(工業会/Web)	7月18日	委員会:今後の予測作業について(四五六菜館)	12月13日	委員会:2022年度予測(2023)見直し(機振会館/Web併用)	3月8日	委員会:2023年度需要予測(2024)検討(工業会/Web)	工作機器と需要業界の短・中期需要予測を行い需給関係を解明。 見学会。 委員長改選。
国際委員会			7月26日 ～27日	編集委員会との合同見学会(シンフォニアテクノロジー伊勢製作所)			1月24日	JIMTOF2024第2回協賛団体説明会(機振会館)	海外動向調査、広報用パンフレット発行、JIMTOF2024対応等。 見学会。 委員長改選。
			8月2日	JIMTOF2024第1回協賛団体説明会、記者発表(トラストシティカンファレンス神谷町)			3月7日	委員会(機振会館/Web併用)	
			8月23日	中国常州国家高新区商務局との情報交換(工業会)					
			9月19日 ～24日	EMO2023視察ツアー					
広報委員会									
編集委員会	5月30日	「こうさくNo.120, 121」編集・企画等について(工業会/Web併用)	7月26日 ～27日	国際委員会との合同見学会(シンフォニアテクノロジー伊勢製作所)	11月9日	「こうさくNo.122, 123」編集・企画等について(工業会/Web併用)	2月8日	「こうさくNo.123, 124」編集・企画等について(工業会/Web併用)	機関誌「こうさく」の企画、編集。 工業会70周年記念誌の発行事前検討。 委員長改選。
			8月25日	「こうさくNo.121, 122」編集・企画等について(工業会/Web併用)					
技術振興委員会							3月5日	正副委員長会議(工業会/WEB併用)	各技術委員会の活動報告及び来年度の活動方針 中小企業等経営強化法に係る証明書発行状況についての報告
ボールねじJIS委員会							3月22日	JIS B 1192-2ボールねじの改正原案について(機振会館/WEB併用)予定	ISO3408-2に対応した、JIS B 1192-2のJIS原案作成 ・JIS B 1192-2ボールねじ-第2部:呼び径及び呼びリード
電磁クラッチ技術委員会	4月26日	PLガイドライン等の見直しについて(WEB)	7月19日	PLガイドライン等の見直しについて(WEB)	10月18日	評価試験の心得の見直しについて(工業会)	3月13日	評価試験の心得の見直しについて(工業会/WEB併用)予定	PLガイドライン、評価試験の心得等の見直しについての検討
ボールねじ技術委員会	6月28日	JIS B 1192-2ボールねじの改正について(機振会館/WEB併用)	8月10日	JIS B 1192-2ボールねじの改正について(機振会館/WEB併用)	10月16日	JIS B 1192-2ボールねじの改正原案について(機振会館/WEB併用)	2月15日	JIS B 1192-2ボールねじの改正原案について(機振会館/WEB併用)	ISO3408-2に対応した、JIS B 1192-2のJIS原案作成 ・JIS B 1192-2ボールねじ-第2部:呼び径及び呼びリード
					11月21日	JIS B 1192-2ボールねじの改正原案について(機振会館/WEB併用)			

II. 2023年度事業実施の状況
1. 2023年度事業活動の実績等

2023年度事業計画 (2023年4月1日から2024年3月31日まで)	事業活動の実績	活用方法等
1. 工作機器に関する生産、流通等の調査		
(1) 工作機器の生産、販売、在庫及び輸出入統計の実施 ・生産動態統計の実施	<p>・当工業会の全正会員を対象に、次の4つの調査票で毎月15日を締切日として実施した。</p> <p>① 工作機器生産動態調査票(生産、販売、在庫、受注:総額、輸出、受注残) ② 工作機器需要部門別販売額調査票 ③ 工作機器輸出実績調査票 ④ 工作機器輸入実績調査票</p>	<p>・調査結果は、詳細を月報として会員に提供するとともに、公表用として加工した部分についてはホームページ及び機関誌等に掲載して広く一般に提供。</p> <p>・「2023年工作機器統計資料」として会員に配布。</p> <p>・その他、関係機関等で用いる政策立案等の基礎データとして、工作機器に関する唯一の公式統計として提供。</p>
(2) 工作機器業界の税制、金融の動向等の調査	<p>(会員の事業活動に関わる税制の調査)</p> <p>・2023年12月に閣議決定された令和6年度税制大綱の内容や、製造業の事業活動に密接に関係する経済産業省税制改正、インボイス制度等について調査し、会員に周知した。</p>	<p>・工作機器ニュースで詳細情報を周知・連絡。</p>
	<p>(関係団体の動向・事業の調査)</p> <p>・工作機器の関連する団体等および当会が団体参加している団体等の動向や事業について調査し、会員に周知した。</p> <p>(参考) ・(一社)日本機械工業連合会の「令和6年度税制改正に関する機械業界の要望」、(一社)日本工作機械工業会の実施する「工作機械検定」・「輸出管理講習会」等。</p>	<p>・工作機器ニュースで計14回の周知・連絡。</p>
	<p>(会員の事業活動に関わる金融・経済の動向調査)</p> <p>・中小企業支援対策、産業活動分析、海外現地法人の動向、月例経済報告、法人企業景気予測調査、地域経済動向、貿易統計、その他関係行政機関の各種統計調査報告等、各種情報を収集し会員に周知した。</p>	<p>・工作機器ニュースで計99回の周知・連絡。</p>
(3) 工作機器の需給構造、需要予測等の調査	<p>・需要調査専門委員会(平沢真一委員長)を運営し、需給関係を解明することを目的として、工作機器と需要業界の短・中期需要予測を実施した。</p> <p>・「2023年度 工作機器の需要動向調査事業報告書」をとりまとめ、2024年度総会において会員に報告予定。</p>	<p>・総会で「2023年度 工作機器の需要動向調査事業報告書」として会員に配布するとともに、機関誌「こうさくNo.124(2024年7月発行予定)」に報告の概要を掲載。</p>
(4) 知的財産の推進および保護に関する調査	<p>・会員の事業活動に関連する知的財産の推進や保護に関する、政府・関係官庁の動向を調査し、会員に周知した。</p> <p>(参考) ・内閣に設置された知的財産戦略本部が策定した「知的財産推進計画2023」、特許庁の「令和4年度知的財産活動調査」・「特許行政年次報告書2023年版」・「特許庁ステータスレポート2023」等。</p>	<p>・工作機器ニュースで詳細情報を周知・連絡。</p>
2. 工作機器に関する技術及び安全性の調査		
(1) 工作機器の技術高度化に関する調査	<p>(技術の向上等に関する調査)</p> <p>・会員の工作機器製造における技術の向上に関わる政府施策や関係団体等の事業について調査し、会員に周知した。</p> <p>(参考) ・経済産業省が実施する「成長型中小企業等研究開発支援事業の公募」、関係団体等で実施されている、技術講習会、新技術・新製品等を対象とした表彰制度等。</p>	<p>・工作機器ニュースで計18回の周知・連絡。</p>
・ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会への参加	<p>日本経済再生本部の策定した「ロボット新戦略」の推進のために、(一社)日本機械工業連合会に設置されている、「ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会」に参加し、情報収集に努め、その情報を会員に周知した。</p>	<p>・収集した情報は、工作機器ニュースで会員に周知した。</p>
・産学研究会の実施	<p>(産学研究会)</p> <p>・2024年3月25日(月)第25回産学研究会を会員等21名(懇親会18名)が出席して実施した。</p> <p>(参考) ・場所: 千葉大学工学部 (千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33) ・講演: ① 加工物理学研究室の概要紹介とレーザーによるマニピュレーション(比田井洋史教授) ② ダイヤモンドのレーザースライス(坂本康輔修士課程) ③ ガラスのレーザー溶断、ダイヤモンド工具によるクラック伸展制御(伊東翔特任助教) ④ ホイールによるガラススクライプ中の亀裂進展と内部応力の可視化(松坂壮太教授) ⑤ ガラス内銀析出現象の動的観察(河野美優香修士課程) ⑥ 配向した繊維で強化した部品の光造形(中本剛教授) ・見学等: 研究室見学、講師との懇談</p>	<p>・大学で取り組んでいる先端的な研究について講義を受けると共に、実験室の見学、講師等研究者との懇談を通じて勉強する貴重な機会を提供。</p> <p>・各社の事業活動を通じて基礎資料として活用されることを期待。</p>

2023年度事業計画 (2023年4月1日から2024年3月31日まで)	事業活動の実績	活用方法等
(2) 環境保全・製品安全性確保・労働環境改善の調査	<ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラル、化学物質管理、化学物質の規制に関するストックホルム条約に関する情報、夏季の省エネルギーの取組等について経済産業省などから会員に対する周知及び協力の要請への対応を行った。 熱中症予防対策、労務費の適切な転嫁、PCBに汚染された機器などの調査、障害者差別解消法等について、経済産業省、厚生労働省などから会員への周知及び協力の要請があり、対応した。 ビジネスと人権、SDGs、DXなど会員の事業継続に重要と思われる事項についても調査し、会員に周知した。 	<ul style="list-style-type: none"> 工作機器ニュースで計37回の周知・連絡。 周知及び協力要請の内容に応じて一部はE-mailで会員代表者に周知・連絡。
(3) 工作機器取引の安全対策	<ul style="list-style-type: none"> 工作機器の安全対策については、1995年7月から国内PL団体保険、1997年3月から海外PL団体保険制度の活用を開始している。 以後、毎年7月1日を契約日として、会員企業に対する「国内・輸出品PL団体保険の更新および新規加入のご案内について」を当会会長名で募集し、契約を締結した。 	<ul style="list-style-type: none"> 2023年度は、国内PL団体保険が19社、輸出品PL団体保険が7社、それぞれ契約し、工作機器の安全対策に活用。
3. 工作機器に関する標準化の推進		
(1) 国内規格(JIS)に関する審議	<p>(次のISO規格をJIS化する: JIS規格原案作成) TC39/WG7関係 ISO3408-2 Ball screws - Part 2: Nominal diameters, leads, nut dimensions and mounting bolts Metric series</p> <p>(JIS名称) JIS B 1192-2 ボールねじ-第2部:呼び径、呼びリード、ナット寸法及び取付ボルト</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当会の活動を通じて、ISO規格の制定に対応したJIS規格の原案が策定されることとなり、国の標準化施策に貢献することが期待される。
(2) 国際規格(ISO)に関する審議	<p>(TC29/WG34ツーリング関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ISO 13399 Cutting tool data representation and exchange <p>2023年4月17日～18日に対面で、9月20日にWEBで開催されたISO/TC29/WG34国際会議に出席し、またTA(Task Force)、MA(Maintenance agency)にも出席し、同規格の審議に対応した。</p> <p>(TC29/SC9ツーリング関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ISO 12164-1 Hollow taper interface with flange contact surface - Part 1: Shanks of Type A, AB, C, CB and EB ISO 12164-2 Hollow taper interface with flange contact surface - Part 2: Receivers of type A, C and E for hollow taper shanks of type A, AB, C, CB and EB ISO 12164-3 Hollow taper interface with flange contact surface - Part 3: Shanks of type T, TA and U ISO 12164-4 Hollow taper interface with flange contact surface - Part 4: Receivers of type T and U for hollow taper shanks of type T, TA and U ISO 12164-5 Hollow taper interface with flange contact surface - Part 5: Shanks of type AS, CS and ES ISO 12164-6 Hollow taper interface with flange contact surface - Part 6: Receivers of type AS, CS and ES for hollow taper shanks of type AS, CS and ES <ul style="list-style-type: none"> ISO/DIS 5686-1 Tapered polygonal interface with flat contact surface - Part 1: Shanks of type F, H and A ISO/DIS 5686-2 Tapered polygonal interface with flat contact surface - Part 2: Receivers of type F, H, A and X for shanks of type F, H and A ISO/DIS 5686-3 Tapered polygonal interface with flat contact surface - Part 3: Coupling for driven tool holders with shanks of type F and A <ul style="list-style-type: none"> ISO 13399 Cutting tool data representation and exchange <p>2023年11月2日～3日にドイツ・ベルリンで対面開催されたISO/TC29/SC9国際会議に出席し、日本意見の説明を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本件は、切削工具データの記述と交換に関する規格で、主に欧州の切削工具メーカーにより審議されてきたが、ツーリングに関する内容等に不十分なところがあるので、当会として積極的に参加するとともに適正な規格内容の実現を目指すことによって、我が国の標準化活動による貢献と適切な国際規格の発行に寄与する。 本件(ISO 12164-1～-6)は、ドイツからの改正提案で、各段階での改正案に対し、我が国の意見を提出することにより一部であるが反映され、適正な国際規格作成に寄与する。 我が国の意見を反映した適正な国際規格作成に寄与する。 ISO/CD 5868-1～-3は、ドイツからの提案で、我が国の意見が一部であるが反映され、適正な国際規格作成に寄与する。 引き続き当会として積極的に参加するとともに適正な規格内容の実現を目指すことによって、我が国の標準化活動による貢献と適切な国際規格の発行に寄与する。
	<p>(TC39/JWG7ボールねじ関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ISO/WD 3408-5 Ball screws - Part 5 Static and dynamic axial load ratings and operational lifetime 	<ul style="list-style-type: none"> 本件は、ドイツからDINベースで出された改正提案で、ドイツのたたき案について日本の見解をドイツに送付し、ドイツ国内で日本の意見について検討中。 我が国の意見を反映した適正な国際規格作成に寄与する。
	<p>(TC39/SC8チャック関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ISO 16156 Machine-tools safety - Safety requirements for the design and construction of work holding chucks 	<ul style="list-style-type: none"> 当該規格に対する我が国からの修正提案に関する幹事国(ドイツ)からの対応待ち。規格内容等の確認を再度行うなど、今後の展開に備えた。

2023年度事業計画 (2023年4月1日から2024年3月31日まで)	事業活動の実績	活用方法等
(3)国際標準化活動に関する戦略的な取組等の検討	<p>・ISO/TC29(工具)に関する国内関係団体(5団体)の規格審議状況等に対する関係団体間の意見交換/調整等を行った。</p> <p>(参考) 関係5団体: 当会、日本機械工具工業会、ダイヤモンド工業協会、研削砥石工業会、日本金型工業会</p>	<p>・団体別に担当している規格審議の動向把握や情報交換、ISO国際会議への取り組み等、中長期的な課題解決に向け活用。</p>
4. 工作機器に関する普及及び啓発		
(1)JIMTOF2024(第32回日本国際工作機械見本市)	<p>(協賛団体説明会)</p> <p>・2023年8月2日 第1回協賛団体説明会(トラストシティカンファレンス神谷町)。開催概要、出展規程、協賛団体に対する協力依頼、主催者の取組み等が説明され、引き続き、記者発表及び懇親会が開催された。</p> <p>・2024年1月24日 第2回協賛団体説明会(機械振興会館)。出展申込状況、小間数調整等が説明された。</p> <p>(JIMTOF2024開催日程)</p> <p>・2024年11月5日(火)～10日(日)まで、東京ビッグサイトで開催予定。</p>	<p>JIMTOF2024</p> <p>・当会は49社の会員が出展予定。</p> <p>・2023年9月4日付で協力依頼に関する覚書を東京ビッグサイトと締結。</p> <p>・2023年10月2日～31日まで出展申込受付。</p> <p>・2024年1月29日出展小間数決定。</p> <p>・2024年1月30日出展承諾書と出展申込金請求書を発送。</p>
(2)出版物等の発行	<p>・工作機器の普及及び啓発活動として、ホームページ、E-mail、週報(工作機器ニュース)、機関誌(こうさく)、会員名簿等を情報伝達の媒体として用意し、会員向け又は一般向けに各種情報を提供した。</p>	<p>・会員企業の事業活動に活用されることを期待するとともに、内外工作機械見本市、新規会員等の勧誘等を含め幅広く活用されることを期待。</p>
5. 工作機器に関する内外関係機関等との交流及び協力		
(1)工作機械、工具等関連団体との交流	<p>・税制改正、環境問題等、機械関係業界として業種横断的に対応すべき課題に関して、(一社)日本機械工業連合会で進められる事業に参加・協力するなど、関連情報の収集に努めるとともに要望書の取りまとめなどで協力した。</p> <p>・JIMTOFに関して、同展示会の主催者及び協賛団体をメンバーとする工作機械関連団体協議会や協賛団体説明会に積極的に参加し、当会の意向を伝えるとともに展示会開催に向けた準備作業で協力した。</p> <p>・日本機械工具工業会との併催事業として、海外視察(EMO2023)を実施した。</p> <p>・機関誌「こうさく」に工作機械メーカー等の「新技術動向」「新製品等」を日本工作機械工業会及び日本精密機械工業会等の関連団体の協力を得て紹介している。当企画はNo.46(2004年度)から継続して実施している。</p> <p>・ISO/TC29関係国内5団体と2回の情報交換会を実施した。</p>	<p>・当会で対応すべき課題のうち、①単独で対応することが困難なもの、②各業種に共通的な課題であって共同して対応することが合理的なもの、③特に関係の深い団体との間で一体的な検討を必要とするものなどについて、効率的な業務の進め方に役立っている。</p>
(2)海外における工作機器の動向等に関する調査	<p>・海外で開催される展示会の案内、海外現地法人四半期調査(経済産業省)、世界経済の潮流(内閣府)等について、工作機器ニュースで情報提供した。</p> <p>・国際委員会・編集委員会合同委員会を2023年7月26日(水)、27日(木)に開催し、シンフォニアテクノロジー(株)伊勢製作所を見学した他、同社の海外展開に関する説明を受けた。</p> <p>・中国常州国家高新区商務局の顧部長が来会し、常州国家高新区の説明を受けたほか、情報交換等の交流を行った。</p> <p>・EMO2023の開催に合わせ、当会並びに(一社)日本機械工具工業会との併催事業として、EMO2023視察ツアーを実施し、EMO視察の他、プレーメンでメルセデスベンツの工場視察を実施した。</p>	<p>・海外動向の把握に参考となる情報が各会員企業で活用されていることを期待。</p>
6. その他		
(1)人材開発研究会	<p>・2020年度から人材開発研究会を設置。</p> <p>・現下の企業活動は国の主導する働き方改革の推進はじめ、従来の枠にとらわれない広義の職場環境づくりが喫緊の課題となっている。こうした課題に対する会員企業の取り組みを支援するため、関係する情報収集、事例紹介、各社が抱える課題の共有を工業会で実施する意義は大きい。</p> <p>・2023年度は講演会の開催は行わなかったが、研究会の趣旨に則り、SDGs、DX、GX等、会員企業の事業環境改善に資する情報の収集、周知に努めた。</p>	<p>・労務・人事部門の方が他社の同職種の方々と交流・情報交換できる場として活用。幅広い視点での交流のためにも、様々な役職レベルの方に呼び掛けを継続。</p> <p>・当研究会で得られた情報等は、適宜、工作機器ニュース、機関誌「こうさく」等を活用して会員に情報提供を行う。</p>
(2)講演会、見学会等の開催	<p>(講演会の開催)</p> <p>・2023年10月12日に開催した工業会秋季大会で、Rapidus(株)取締役会長 東 哲郎氏を講師にお招きし講演会を開催した。</p> <p>(参考) 【秋季大会講演会】 ・開催日:2023年10月12日(木) ・テーマ:「最先端半導体およびデジタル産業の持続的成長に向けてーRapidus、LSTC設立の背景ー」 ・講師:東 哲郎氏 Rapidus(株)取締役会長、技術研究組合 最先端半導体技術センター(LSTC)理事長</p>	
	<p>(産学交流研究会)</p> <p>・2024年3月25日(月)千葉大学工学部における講演会を開催した。(2.(1)の再掲)</p> <p>・日本工作機械工業会と協力して、以下の特別講演会を企画した。</p> <p>・開催日:2024年3月26日(火) ・テーマ:DXに向けた工程設計支援とアイトラッキングによる技能獲得 ・講師:林 偉民 氏(群馬大学教授)、天谷賢児氏(群馬大学教授)、川島久宜氏(群馬大学准教授)、桑名杏奈氏(和洋女子大学准教授)</p>	
(3)中小企業等経営強化法等に関する「証明書」発行サービス	<p>中小企業等経営強化法に基づく経営力向上設備等に関する「証明書」の発行サービスを実施した。 2023年度発行件数 33件</p>	<p>・当会の本証明書発行サービスを活用し、会員各位の業務に役立つことを期待。</p>

2023年度事業計画 (2023年4月1日から2024年3月31日まで)	事業活動の実績	活用方法等
(4) 経済安全保障に関する情報提供	経済産業省より、当会ドライビングユニット分科会メンバーに経済安全保障推進法関連の動きについて周知したいとの連絡があり、2023年10月10日に同省製造産業局産業機械課 川内拓行課長補佐より説明が行われた。	経済安全保障の動きの中で、会員各社の対応の一助となることを期待。
(5) 会員の入会活動	・日常業務を通じて得られた関係等に基づき、適宜工業会PR資料と入会案内資料を関係企業あてに送付。	・2024年3月31日現在の正会員は60社(前年度末60社)、賛助会員は9社(同9社)。

2. 組織の詳細 (2024年3月31日現在)

(1) 会員 69社

- ・正会員 60社 (50音順)
 1. アイセル株式会社
 2. 株式会社 赤松電機製作所
 3. アサ電子工業株式会社
 4. エヌアイシ・オートテック株式会社
 5. NTN 株式会社
 6. エヌティーツール株式会社
 7. 株式会社 MST コーポレーション
 8. 小倉クラッチ株式会社
 9. カトウ工機株式会社
 10. カネテック株式会社
 11. カブト工業株式会社
 12. 株式会社 カワタテック
 13. 川田鉄工株式会社
 14. 関東精機株式会社
 15. 株式会社 北川鉄工所
 16. 株式会社 九州工具製作所
 17. 共立精機株式会社
 18. 黒田精工株式会社
 19. ケーエスエス株式会社
 20. 株式会社 コスメック
 21. 小林鉄工株式会社
 22. 三愛エコシステム株式会社
 23. 株式会社 三共製作所
 24. 株式会社 三洋製作所
 25. 株式会社 ジェイテクトマシンシステム
 26. 聖和精機株式会社
 27. 聖和精密工機株式会社
 28. 昭和電機株式会社
 29. シンフォニアテクノロジー株式会社
 30. 株式会社 第一測範製作所
 31. 大昭和精機株式会社
 32. 竹内精工株式会社
 33. 津田駒工業株式会社
 34. 株式会社 ツバキ・ナカシマ
 35. THK 株式会社

36. 帝国チャック株式会社
37. 中原化成品工業株式会社
38. 株式会社 ナベヤ
39. 鍋屋バイテック株式会社
40. 株式会社 ナベル
41. 株式会社 日研工作所
42. 日本オイルポンプ株式会社
43. 日本オートマチックマシン株式会社
44. 日本ジャバラ株式会社
45. 日本精工株式会社
46. 日本トムソン株式会社
47. 日本ベアリング株式会社
48. 株式会社 野村製作所
49. パスカル株式会社
50. 株式会社 ビーシーテック
51. 二村機器株式会社
52. 豊和工業株式会社
53. 株式会社 マイティ
54. 松本機械工業株式会社
55. 三木プーリ株式会社
56. 山田マシンツール株式会社
57. ユキワ精工株式会社
58. ユニオンツール株式会社
59. 理研精機株式会社
60. リューベ株式会社

・賛助会員 9社 (50音順)

1. 株式会社 オーマット
2. 株式会社 クライム
3. 京滋興産株式会社
4. 高津伝動精機株式会社
5. 株式会社 東陽
6. 株式会社 トミタ
7. 株式会社 NaITO
8. 株式会社 山善
9. 株式会社 ヤマモリ

(2) 役員

会 長	寺 町 彰 博	T H K (株)
副 会 長	北 川 祐 治	(株) 北 川 鉄 工 所
〃	黒 田 浩 史	黒 田 精 工 (株)
〃	宮 地 茂 樹	日 本 ト ム ソ ン (株)
専 務 理 事	梅 澤 茂 之	
理 事	相 澤 純 也	シンフォニアテクノロジー(株)
〃	鮎 澤 剛 史	関 東 精 機 (株)
〃	大 河 哲 史	津 田 駒 工 業 (株)
〃	太 田 晶 久	ケ ー エ ス エ ス (株)
〃	岡 本 友 二 郎	鍋 屋 バ イ テ ッ ク (株)
〃	小 倉 康 宏	小 倉 ク ラ ッ チ (株)
〃	酒 卷 弘 和	ユ キ ワ 精 工 (株)
〃	寺 坂 創 介	帝 国 チ ャ ッ ク (株)
〃	長 濱 明 治	(株) 日 研 工 作 所
〃	西 野 秀 哉	大 昭 和 精 機 (株)
〃	二 村 忠 宏	二 村 機 器 (株)
〃	堀 越 栄 治 郎	リ ュ ー ベ (株)
〃	三 木 康 治	三 木 プ ー リ (株)
〃	溝 口 春 機	(株)M S T コ ー ポ レ ー シ ョ ン
〃	宮 口 和 男	日 本 精 工 (株)
〃	山 木 勝	カ ネ テ ッ ク (株)
監 事	加 藤 祐 造	カ ト ウ 工 機 (株)
〃	山 田 雅 英	山 田 マ シ ン ツ ー ル (株)
〃	菊 地 秀 行	日 本 工 作 機 械 関 連 企 業 年 金 基 金

(3) 事務局

専務理事兼事務局長	梅澤 茂之
事務局次長	松居 秀樹
技術課長	堺 弘司
総務課長	糸井 恵子
臨時職員	長島 淑江

(4) 委員会

① 運営委員会 (15 社)

担 当 宮 地 茂 樹 副 会 長 (日 本 ト ム ソ ン 株)

委 員 長 下 村 康 司 (日 本 ト ム ソ ン 株)

日 本 ト ム ソ ン 株、(株)M S T コ ー ポ レ ー シ ョ ン、小 倉 ク ラ ッ チ 株、カ ネ テ ッ ク 株、関 東 精 機 株、聖 和 精 機 株、シ ン フ ォ ニ ア テ ク ノ ロ ジ ー 株、(株)第 一 測 範 製 作 所、津 田 駒 工 業 株、T H K

株、帝国チャック株、日本ジャバラ株、日本精工株、二村機器株、三木プーリ株

② 需給委員会 (9 社)

担 当 宮地 茂樹副会長 (日本トムソン株)

委 員 長 平沢 真一 (株第一測範製作所)

(株第一測範製作所、小倉クラッチ株、黒田精工株、株北川鉄工所、ケーエスエス株、THK株、鍋屋バイテック株、日本トムソン株、三木プーリ株、(外部委員：中間正道)

③ 需要調査専門委員会 (9 社)

委 員 長 平沢 真一 (株第一測範製作所)

需給委員会が需要調査専門委員を兼ねるため省略する。

④ 技術振興委員会 (35 社)

担 当：北川 祐治副会長 (株北川鉄工所)

委員長：宮口 和男 (日本精工株)

副委員長：福崎 亮一 (シンフォニアテクノロジー株)

〃 水口 淳二 (日本精工株)

〃 星出 薫 (THK株)

〃 渡辺 宏 (鍋屋バイテック株)

〃 早川 祥弘 (豊和工業株)

〃 三角 進 (株日研工作所)

〃 多田 裕之 (津田駒工業株)

(株北川鉄工所、日本精工株、シンフォニアテクノロジー株、THK株、鍋屋バイテック株、豊和工業株、株日研工作所、津田駒工業株、アイセル株、アサ電子工業株、エヌティーツール株、株MS Tコーポレーション、小倉クラッチ株、カトウ工機株、共立精機株、黒田精工株、ケーエスエス株、光洋機械工業株、株三洋製作所、聖和精機株、聖和精密工機株、株第一測範製作所、大昭和精機株、株ツバキ・ナカシマ、帝国チャック株、株ナベヤ、日本トムソン株、日本ベアリング株、株野村製作所、株マイティ、松本機械工業株、三木プーリ株、ユキワ精工株、理研精機株、リユーベ株)

⑤ 国際委員会 (11 社)

担 当 北川 祐治副会長 (株北川鉄工所)

委 員 長 鮎澤 剛史 (関東精機株)

関東精機株、エヌティーツール株、小倉クラッチ株、株北川鉄工所、シンフォニアテクノロジー株、津田駒工業株、THK株、帝国チャック株、日本トムソン株、株野村製作所、二村機器株

⑥ 広報委員会 (5 社)

担 当 黒田 浩史副会長 (黒田精工株)

委 員 長 嶽本 幸一 (シンフォニアテクノロジー株)

シンフォニアテクノロジー株、黒田精工株、THK株、日本トムソン株、三木プーリ株

⑦ 編集委員会 (5 社)

担 当 黒田 浩史副会長 (黒田精工株)

委 員 長 嶽本 幸一 (シンフォニアテクノロジー株)

広報委員会が編集委員会を兼ねるため省略する。

(5) 部会

① 部分品部会 (19 社)

部会長 下牧 純二 (THK(株))

副部会長 猪越 義彦 (小倉クラッチ(株))

THK(株)、小倉クラッチ(株)、シンフォニアテクノロジー(株)、三木プーリ(株)、NTN(株)、黒田精工(株)、ケーエスエス(株)、光洋機械工業(株)、(株)第一測範製作所、竹内精工(株)、(株)ツバキ・ナカシマ、日本精工(株)、日本トムソン(株)、日本ベアリング(株)、ユニオンツール(株)、アイセル(株)、アサ電子工業(株)、鍋屋バイテック(株)、(株)マイティ

② 工作物保持具部会 (15 社)

部会長 寺坂 創介 (帝国チャック(株))

帝国チャック(株)、(株)カワタテック、川田鉄工(株)、(株)北川鉄工所、小林鉄工(株)、(株)野村製作所、豊和工業(株)、松本機械工業(株)、理研精機(株)、カネテック(株)、カブト工業(株)、二村機器(株)、(株)コスメック、(株)三洋製作所、(株)ナベヤ

③ 工具保持具部会 (13 社)

部会長 弓場 隆 ((株)MST コーポレーション)

カトウ工機(株)、(株)MST コーポレーション、エヌティーツール(株)、(株)九州工具製作所、共立精機(株)、黒田精工(株)、聖和精機(株)、聖和精密工機(株)、大昭和精機(株)、(株)日研工作所、(株)ビーシーテック、二村機器(株)、ユキワ精工(株)

④ 附属機器部会 (21 社)

部会長 大河 哲史 (津田駒工業(株))

津田駒工業(株)、日本ジャバラ(株)、(株)北川鉄工所、関東精機(株)、(株)三共製作所、(株)ナベヤ、(株)日研工作所、日本オートマチックマシン(株)、松本機械工業(株)、山田マシンツール(株)、ユキワ精工(株)、(株)赤松電機製作所、エヌアイシ・オートテック(株)、カネテック(株)、三愛エコシステム(株)、昭和電機(株)、中原化成成品工業(株)、(株)ナベル、日本オイルポンプ(株)、パスカル(株)、リユーベ(株)、

(6) 分科会

① 電磁クラッチ分科会 (3 社)

分科会長 猪越 義彦 (小倉クラッチ(株))

小倉クラッチ(株)、シンフォニアテクノロジー(株)、三木プーリ(株)

② ドライビングユニット分科会 (12 社)

分科会長 下牧 純二 (THK(株))

THK(株)、NTN(株)、黒田精工(株)、ケーエスエス(株)、光洋機械工業(株)、(株)第一測範製作所、竹内精工(株)、(株)ツバキ・ナカシマ、日本精工(株)、日本トムソン(株)、日本ベアリング(株)、ユニオンツール(株)

③ 軸継手分科会 (5 社)

分科会長 安藤 敏信 (三木プーリ(株))

三木プーリ(株)、アイセル(株)、アサ電子工業(株)、鍋屋バイテック(株)、(株)マイティ

④ チャック分科会 (9 社)

分科会長 寺坂 創介 (帝国チャック(株))

帝国チャック(株)、(株)カワタテック、川田鉄工(株)、(株)北川鉄工所、小林鉄工(株)、(株)野村製作所、豊和工業(株)、松本機械工業(株)、理研精機(株)

⑤ その他工作物保持具分科会 (6 社)

分科会長 二村 忠宏 (二村機器(株))

二村機器(株)、カネテック(株)、カブト工業(株)、(株)コスメック、(株)三洋製作所、(株)ナベヤ

⑥ ツーリング分科会 (13 社)

分科会長 叶 楠 (聖和精機(株))

工具保持具部会が、上記の分科会を兼ねるため省略する。

⑦ 附属品分科会 (9 社)

分科会長 大河 哲史 (津田駒工業(株))

津田駒工業(株)、(株)北川鉄工所、(株)三共製作所、(株)ナベヤ、(株)日研工作所、日本オートマチックマシン(株)、松本機械工業(株)、山田マシンツール(株)、ユキワ精工(株)

⑧ 機器分科会 (12 社)

分科会長 田中 信吾 (日本ジャバラ(株))

日本ジャバラ(株)、(株)赤松電機製作所、エヌアイシ・オートテック(株)、カネテック(株)、関東精機(株)、三愛エコシステム(株)、昭和電機(株)、中原化成品工業(株)、(株)ナベル、日本オイルポンプ(株)、パスカル(株)、リユーベ(株)

(7) 技術委員会

① 電磁クラッチ技術委員会 (3 社)

委員長 福崎亮一 (シンフォニアテクノロジー(株))

シンフォニアテクノロジー(株)、小倉クラッチ(株)、三木プーリ(株)

② ボールねじ技術委員会 (8 社)

委員長 水口淳二 (日本精工(株))

日本精工(株)、黒田精工(株)、ケーエスエス(株)、光洋機械工業(株)、(株)第一測範製作所、竹内精工(株)、(株)ツバキ・ナカシマ、THK(株)

③ 直動技術委員会 (6 社)

委員長 星出薫 (THK(株))

THK(株)、(株)ツバキ・ナカシマ、日本精工(株)、日本トムソン(株)、日本ベアリング(株)、ユニオンツール(株)

④ 軸継手技術委員会 (5 社)

委員長 渡辺宏 (鍋屋バイテック(株))

鍋屋バイテック(株)、アイセル(株)、アサ電子工業(株)、(株)マイティ、三木プーリ(株)

⑤ チャック技術委員会 (9 社)

委員長 早川祥弘 (豊和工業(株))

豊和工業(株)、(株)カワタテック、川田鉄工(株)、(株)北川鉄工所、小林鉄工(株)、帝国チャック(株)、(株)野村製作所、松本機械工業(株)、理研精機(株)

⑥ ツーリング技術委員会 (13社)

委員長 三角 進 (株)日研工作所)

(株)日研工作所、エヌティーツール(株)、(株)MST コーポレーション、カトウ工機(株)、(株)九州工具製作所、共立精機(株)、黒田精工(株)、聖和精機(株)、聖和精密工機(株)、大昭和精機(株)、(株)ビーシーテック、二村機器(株)、ユキワ精工(株)

⑦ アタッチメント技術委員会 (8社)

委員長 多田 裕之 (津田駒工業(株))

津田駒工業(株)、(株)北川鉄工所、(株)三共製作所、(株)ナベヤ、(株)日研工作所、日本オートマチックマシン(株)、松本機械工業(株)、ユキワ精工(株)

(8) JIS・ISO 関係委員会

① ボールねじ JIS 原案作成委員会

深田 茂生 (信州大学)
川内 拓行 (経済産業省)
上山大治郎 ((一財)日本規格協会)
高橋 宗生 ((株)牧野フライス製作所)
藤木 正寛 (DMG森精機(株))
山内 康弘 ((株)東京精密)
三浦 敏道 ((一社)日本ロボット工業会)
井村 隆治 ((株)ミットヨ)
水口 淳二 (日本精工(株))
片桐 篤史 (黒田精工(株))
佐藤 英明 (ケーエスエス(株))
秋山 格 ((株)ツバキ・ナカシマ)
三浦 徹也 (THK(株))

(9) 人材開発研究会

座長 内田 賢 (東京学芸大学)

(株)MST コーポレーション、(株)北川鉄工所、黒田精工(株)、THK(株)、鍋屋バイテック(株)、日本トムソン(株)、三木プーリ(株)、山田マシンツール(株)

3. 会員の異動 (2023年3月31日現在)

2022年度末会員数 70社 (正会員61社、賛助会員9社)

退会: 2023年3月31日付け 正会員 三和ロボティクス株式会社

2023年度末会員数 69社 (正会員60社、賛助会員9社)

退会: 2024年3月31日付け 正会員 聖和精密工機株式会社

(2024年4月1日現在会員数 68社 (正会員59社、賛助会員9社))

Ⅲ. 2023年（暦年）工作機器概況

2023年の工作機器の生産・販売は、生産額1,743億円（前年比80.8%）、販売額1,768億円（同80.2%）となり、生産額、販売額ともに3年ぶりに前年比マイナスとなった。

生産額の動向を暦年四半期別にみると、第1四半期493.7億円（前年同期比94.0%）、第2四半期451.6億円（同83.4%）、第3四半期403.9億円（同73.8%）、第4四半期393.7億円（同72.5%）であった。

部会別生産動向を暦年でみると、部分品1,087.0億円（前年比74.1%）、工作物保持具183.9億円（同86.6%）、工具保持具138.1億円（同96.9%）、附属機器333.9億円（同99.5%）となり、部分品が工作機器全体の62.4%を占めている。

部会別にそれぞれの内訳をみると、部分品では、直線運動用案内511.9億円（同67.7%）、ボールねじ296.3億円（同69.2%）、クラッチ・ブレーキ209.8億円（同100.2%）、軸継手62.7億円（同91.4%）となった。工作物保持具では、パワーチャック105.7億円（同88.8%）、ハンドチャック13.8億円（同97.0%）、回転センタ4.6億円（同83.5%）となった。工具保持具では、NCツーリング112.0億円（同95.7%）、汎用ツーリング9.4億円（同102.8%）、旋盤用ツーリング3.3億円（同90.5%）、専用機用ツーリング1.3億円（114.3%）となった。附属機器では、割出用アタッチメント142.4億円（同91.3%）、マシンバイス14.1億円（同81.9%）、自動工具交換装置及び附属品、ツールプリセッター、油温制御装置等の機器145.5億円（同113.5%）となった。

販売額の動向を暦年で需要業種別の構成比率でみると、工作機械、半導体製造装置、産業機械等の一般機械向けが34.3%と構成比率が高く、輸送機械向け4.9%、電気機械向け3.5%、精密機械向け3.4%、鉄鋼・非鉄金属向け0.7%、商社・代理店経由19.2%、輸出26.3%、その他7.6%となった。

販売額の動向を暦年で需要業種別に前年比でみると、工作機械向け95.1%、金属加工機械向け69.0%、半導体製造装置向け72.2%、運搬機械・ロボット向け82.2%、産業機械向け97.6%、その他一般機械向け78.8%、電子・通信機器向け77.5%、その他電気機械向け73.3%、自動車向け75.8%、その他輸送機械向け53.8%、精密機械向け77.4%、鉄鋼・非鉄金属向け74.3%、商社・代理店経由86.3%、輸出75.3%、その他77.3%となり、全ての需要業種で前年を下回る結果となった。

工作機器生産・販売金額実績(1～12月)

(単位：千円・%)

		生産金額	前年比	販売金額	前年比	
部 分 品	2019年	113,894,125	78	116,300,718	78	
	2020年	82,238,260	72	86,119,578	74	
	2021年	130,730,902	159	137,838,534	160	
	2022年	146,693,645	112	155,310,793	113	
	2023年	108,697,809	74	113,393,652	73	
工作物保持具	2019年	20,923,453	109	17,652,861	95	
	2020年	13,543,964	65	11,320,175	64	
	2021年	19,437,516	144	14,191,514	125	
	2022年	21,229,956	109	15,576,252	110	
	2023年	18,392,685	87	14,539,017	93	
工具保持具	2019年	16,325,717	90	15,448,284	87	
	2020年	11,819,781	72	11,188,230	72	
	2021年	13,586,354	115	13,459,462	120	
	2022年	14,255,833	105	14,582,031	108	
	2023年	13,808,833	97	13,864,755	95	
附 属 機 器	附 属 品	2019年	23,693,089	87	22,584,133	87
		2020年	15,685,482	66	14,604,690	65
		2021年	21,475,047	137	17,878,529	122
		2022年	20,729,205	97	20,013,064	112
		2023年	18,838,859	91	17,802,542	89
	機 器	2019年	11,578,083	83	13,802,499	86
		2020年	8,305,264	72	9,982,457	72
		2021年	11,254,606	136	13,555,913	136
		2022年	12,815,774	114	15,130,037	112
		2023年	14,548,658	114	17,235,611	114
合 計	2019年	186,414,467	83	185,788,495	81	
	2020年	131,592,751	71	133,215,130	72	
	2021年	196,484,425	149	196,923,952	148	
	2022年	215,724,413	110	220,612,177	112	
	2023年	174,286,844	81	176,835,577	80	

2023年度
 経営力向上設備等に関する証明書発行状況について
 (中小企業等経営強化法の経営力向上設備等に係る生産性向上要件証明書)
 (2023年4月3日(月)～2024年3月31日(日))

2024年3月31日

	チャック		ツーリング		焼きばめ装置		NC円テーブル		ツールプリセッタ		その他		合計	
	申請	証明書発行	申請	証明書発行	申請	証明書発行	申請	証明書発行	申請	証明書発行	申請	証明書発行	申請	証明書発行
4月	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	1	4	3
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	3	3	4
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
7月	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	4	4	6	6
8月	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	2	2
9月	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	3	3
10月	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	1	3	2
11月	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	2	4	4
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	2
1月	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
2月	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	1	1	4	4
3月	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	3	1
計	0	0	0	0	0	0	12	11	5	5	18	17	35	33

注)その他は、油水分離機,電磁チャック,切粉除去装置,自動圧縮機破砕機,パレットチェンジャ附属品(AWC),パーツフィーダー,自動搬送装置,治具,給油装置及び工作物保持具